

2-1

個別ケアと入居者の生活軸に合わせたゆとりある介護の提供

排泄ケア見直しから始まり～効果的な介護全般の提供へ

業務改善

入居者主体

特別養護老人ホーム ゆとりえ

介護主任 白田清一

東京都武蔵野市吉祥寺南町4-25-5

TEL 0422-72-0311

E-mail yutorieday@parkcity.ne.jp

FAX 0422-72-0321

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

「ゆとりえ」は住民参加の検討会、懇談会により協議を重ね、1996年に開設しました。定員30名の都市型小規模特養ホームとして地域に密着した施設です。

〈取り組んだ課題〉

○介護度の重度化と排泄ケア用品費が年々増大し、排泄介助内容の見直しが必要となる。

↓

○個別援助の必要性が高まり、介護量全体も増加する。

↓

職員の業務内容の密度が高くなり、時間的に圧迫され余裕を持った介護の提供が困難となる。

↓

入居者のニーズと生活軸に合わせた介護全般の見直しが必要となる。

〈具体的な取り組み〉

①個々のニーズに合った排泄介助と、排泄材料費のコスト削減を目的として、排泄ケアの見直しに取り組む。個々の排尿パターンを調査し適切な介助回数、介助時間、尿量に見合った排泄材料の変更を行う。

②生活全体のゆとりをつくり、利用者の生活軸に職員が合わせられる業務内容への改善

○日課及び介護全般の現状評価⇒検討見直し

○嚥下困難者の食事介助の検討改善

○食事、排泄、入浴、余暇のバランスよい提供の工夫

○個別ケア、自立支援の継続、発展の工夫

○日中さまざまな活動が可能な時間を確保する工夫

○入居者、職員共に負担のない介護の検討改善

〈活動の成果と評価〉

①の成果と評価

○排尿パターン、尿量、失禁タイプを把握し個々に適した介助方法、排泄材料に変更できた。

○排尿パターンを知ることにより、可能な限りトイレ排尿を促している。

○10種類程度の排泄材料を入居者の皮膚の状態、尿量などに合わせて適正に使い分けることができ材料費を削減できた。

②の成果と評価

○介護内容、介護時間など、入居者のニーズにそぐわない部分の変更により、日課及び介護全般において余裕ができ、入居者のペースに合わせ、生活軸に沿って介護が提供されるようになった。

○食事、排泄、入浴、余暇がバランスよく提供されそれぞれの介護に時間的余裕が持てるようになった。

↓

利用者、職員共に負担のない介護の提供が可能となる
○食事介助に置いては嚥下困難者が増す中、利用者のペースに合わせた食事時間の確保ができた。

○日常介護に個別リハビリを取り入れることができた。

(食事、排泄、入浴、移動など)

○グループ及び個別余暇の提供が容易となった。

○業務の過密化を改善することにより職員の経験や力量を問わず一定レベルの介助の提供ができる。

〈今後の課題〉

○入居者のニーズを継続的に評価、検討し、施設の日課及び介護全般の見直しを今後も必要に応じて実施する。

○ゆとりある日課づくりと自立支援、個別ケアの両立を進める。